

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第4区分

【発行日】平成21年8月27日(2009.8.27)

【公表番号】特表2009-506214(P2009-506214A)

【公表日】平成21年2月12日(2009.2.12)

【年通号数】公開・登録公報2009-006

【出願番号】特願2008-528310(P2008-528310)

【国際特許分類】

C 23C 14/50 (2006.01)

【F I】

C 23C 14/50 H

【手続補正書】

【提出日】平成21年7月8日(2009.7.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

駆動ディスク22の各々は、その高さに位置する工作物ホルダ13のグループ12の駆動ピン19と、伝達部分25によって結合されており、その伝達部分は、その端縁が駆動ディスク22をぎりぎりで包囲する、中央の円形の結合切欠きを有し、かつ各工作物ホルダ13のための駆動開口部26を有しており、その駆動開口部を通して、前述の端縁によってぎりぎりで包囲される駆動ピン19が突出しているので、伝達部分25は駆動部分20と共に、かつ工作物ホルダ13と共にそれぞれ回転可能であるが、その他においては、わずかな遊びをもって結合されている。工作物ホルダ13のベース14が、図5に示すように形成されている場合に、ベースを極めて簡単に駆動開口部26内へ挿通して、次にマウント15を取り付けることができる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

図2、3に図式的にだけ示されている、伝達部分25は(図7も参照)、上述した結合切欠きを包囲するインナーリング27とアウターリング28を有する平坦な打抜き部品として形成することができ、アウターリング内には、この場合において二十個の駆動開口部26が、同じ数の工作物ホルダ13と係合するために周面にわたって分配して設けられている。インナーリング27とアウターリング28は、径方向のスポーク29によって結合されており、そのスポークは、この例においては中央の結合切欠きから始まる径方向のスリット30によって弱体化されているので、スポークが破断すべき箇所を形成し、該当するグループ12の工作物ホルダ13のいずれかがブロックされた場合に、その破断すべき箇所が破断する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

軸21は、基台1に固定された、中間トランスマッション31の従動部と結合されている。その中間トランスマッションは、基台1と螺合されたベースプレート32と駆動軸4を中心回転可能に駆動軸上に軸承されたリングギヤ33および中間トランスマッション31の従動部と、従って軸21と回転できないように結合されたサンギヤ34を有する、遊星歯車機構として形成されており(図8、9)、そのサンギヤは同様に駆動軸4を中心回転可能にベースプレート32に軸承されている。サンギヤは、3つの等しいプラネタリピニオン35によって包囲されており、そのプラネタリピニオンは駆動軸4に対して平行な軸を中心回転可能であって、リングギヤ33とも、サンギヤ34とも噛合する。リングギヤ33は、外側へ張り出す取っ手状の突出部36を有しており、その突出部は回転台3が回転した場合にその回転台に当接するので、リングギヤ33は回転台3と同じ方向にさらに回転した場合に回転台に対して回動できず、一緒に回転される。従って突出部36は、中間トランスマッション31のための駆動装置を形成する。中間トランスマッション31は、さらに、ベースプレート32に螺合された、軸21のための中央の開口部を有するカバープレート37によって閉鎖されている。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

回転台3がモータ6によって駆動軸4を中心回転された場合に、突出部36が運動されて、中間トランスマッション31のリングギヤ33と一緒に回転されるので、駆動部分20も駆動軸4を中心、特に、広い領域から選択することができる、中間トランスマッション31の変速比に従って、より大きい角速度で回転される。軸21に偏心して固定されている駆動ディスク22の各々によって、それぞれそれと協働する伝達部分25が同様に、偏心率Eの長さに相当する半径の円運動に支配されるが、その場合に伝達部分は該当するグループ12の工作物ホルダ13の駆動ピン19と係合していることに基づいて一緒に回転されない。駆動ピン19は、伝達部分25の運動によって連動されて、同様に、それぞれのホルダ軸を中心に偏心率Eの長さに相当する半径の円運動を実施し、それが同じホルダ軸を中心とする工作物ホルダ13の対応する回転をもたらす。